

4 第一次世界大戦と日本の対応 を学ぶにあたって

1. 「二十一カ条の要求」の扱い

第一次世界大戦に参戦した日本と「二十一カ条の要求」を、流れのどこで扱うかは、教科書によって異なります。第一次世界大戦に含めて「二十一カ条の要求」を扱う教科書、戦後の中国の「五・四運動」の原因として扱う教科書、日本の参戦、「二十一カ条の要求」から大戦景気、戦後恐慌へとつなげる教科書などいろいろです。

今回は、第一次世界大戦のあとに、日本の参戦と「二十一カ条の要求」を加えました。それぞれの使用教科書に合わせて対応していただけたらと考えます。

2. 日本語表現の扱い

戦争を取り上げる単位では、歴史の教科書特有の日本語表現がたくさん使われています。「取り出し授業」の対象は、日本語を母語としない生徒で、世界の歴史は本来、それぞれの言語で学び理解すればよいものなので、日本語でどう表現するかにさほどこだわらなくてよいと考えています。

以下に取り上げるような日本語の用語を、「耳で聞いて、頭の中で漢字変換ができて、意味が理解できる」、というのは、日本語として相当のレベルを要求することです。日本語の力は不十分でも歴史の内容は学習できるようにするために、いくらかの不十分さ不正確さはあっても、学びの内容の方を優先したいと考えています。

そこで、日本語として使用する表現は、ほとんどの教科書で扱い、理解も困難でないものにしぼり、教科書によっては扱っていない用語は原則取り上げないことにしました。

歴史教育の立場からは抵抗を感じる先生方も多いことでしょう。しかし、正確な語彙使用に努めても、生徒が理解できなければ伝わったことにならないと考えます。

(1) 使用する用語：意味を理解する

領土、列強、総力戦、対立する、進出する、占領する、侵略する、参戦する

(2) 使用する用語：写真を見せて理解する。語彙を覚える必要はない

塹壕戦、機関銃、潜水艦、空襲

(3) 使用しない用語：

膠着化する/膠着状態になる、電撃的、投入する、銃後、名目に、標的とする、好機、口実、保護国、最後通牒を発する、権益、大量殺戮、疲弊する、繁栄する、建艦競争、軍拡、増強する、艦隊、短期決戦

(4) 言い換えで対応できる用語：

犠牲者/死傷者→死んだ人けがをした人、長期戦→長い戦争
二極化/陣営→グループ、暗殺する/銃殺する→殺す、

宣戦布告→戦争する、侵入する/侵攻する→軍隊が入る、
破棄する→やめる、動員する→戦争に行く
離脱する→ぬける/終わりにする、亡命する→逃げる、
瓦解する/崩壊する→こわれる/なくなる/終わる、降伏する→負ける、
軍需品→戦争に使うもの、継承する→もらう、
輸出が後退する→輸出が減る、衰退する→弱くなる、想定する→考える、
租借地→根拠地/持っている場所/借りている場所、
優勢.劣勢→強くなる.弱くなる、
派遣する→送る、抑圧する→おさえる、阻止する→とめる
併合する→〇〇国に入れる、領土に入れる
攻撃する→軍隊を進める

以上のように、「聞いて意味がわかる」表現を考慮して、難解な語句の使用を避けました。

戦争の文脈では、日本語で「侵略する」「侵攻する」「進出する」など、いろいろな使い分けがありますが、英語にするとみな invade になります。そのため、これらの日本語の区別はしないで、できるだけ「軍隊が入った」「〇〇国が××を取った」のようにわかりやすい表現にしました。

しかし、中国に関する内容の部分については、逆にそこに「侵略」の言葉がないことに抵抗を感じる中国人生徒がけっこういます。invade の日本語として、必要な場合だけ「侵略する」を使いました。